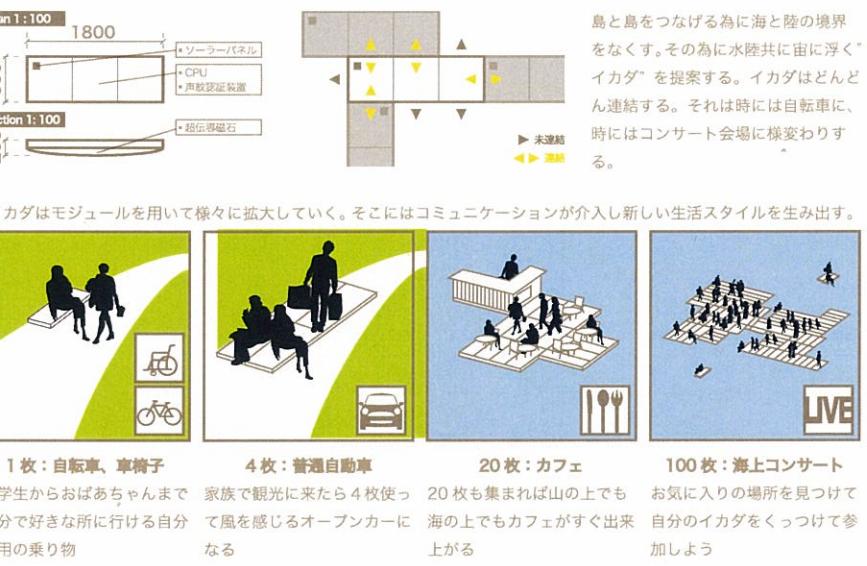


瀬戸内諸島は小さな島の群で成り立っている。そのため全国でも高齢化、過疎化などの限界集落の崩壊を受ける島が多い。瀬戸内諸島全域に統一の交通インフラでありイカダネットを設ける。イカダネットは小島だからこそ有効な交通システムを提案する。島単独ではなく瀬戸内諸島として一つの大きな文化圏を形成する。そこには東京はない、自然環境に恵まれた豊かな21世紀の新しい文化が生産される。



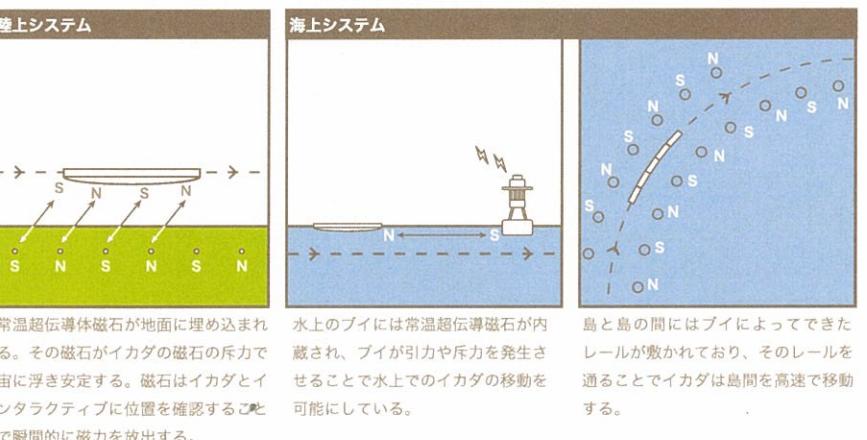
拡張するイカダ

The scalabiliting IKADA



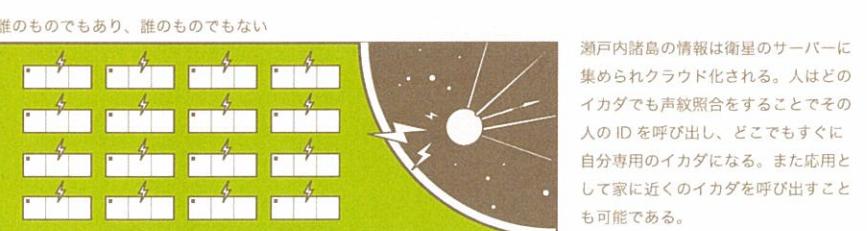
次世代リニア

Next generation linear



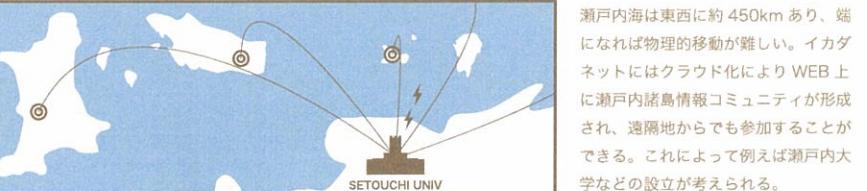
クラウド管理

Cloud computing management



距離を超えたコミュニケーション

Distance to exceeded communication



イカダネット

瀬戸内諸島のどこにでも手に入るイカダがある
それはすごい高性能なイカダだけど愛着がある

自分で自転車の代わりに使ってもいい
家族みんなのイカダをくっつけて車に使っていい
海の上ではみんなのイカダを持ち寄って釣りをしている
このイカダはつなげていくと大きな島にもなる

イカダは瀬戸内海専用の乗り物で
観光に来た人もイカダを手にいれ楽しそうに過ごしている

瀬戸内諸島には東京とは違った文化がある
時速100kmで急ぐ必要はない
ゆっくり呼吸ができる場所がある
島と島がイカダネットで繋がれば
瀬戸内諸島はもっと素敵なお場所になる



瀬戸内諸島のどこにでも手に入るイカダがある
それはすごい高性能なイカダだけど愛着がある

自分で自転車の代わりに使ってもいい
家族みんなのイカダをくっつけて車にしてもいい
海の上ではみんなのイカダを持ち寄って釣りをしている
このイカダはつないでいくと大きな島にもなる

イカダは瀬戸内海専用の乗り物で
観光に来た人もイカダを手にいれ楽しそうに過ごしている

瀬戸内諸島には東京とは違った文化がある
時速100kmで急ぐ必要はない
ゆっくり呼吸ができる場所がある
島と島がイカダネットで繋がれば
瀬戸内諸島はもっと素敵な場所になる

イカダネット



瀬戸内諸島の現状

瀬戸内海は東西に 450km、南北に 15 - 55km、平均水深 : 37.3m、最大水深 : 105m の内海である。

そこには有人島が約 160 島があり、総人口は約 48 万人である。

この人口は岡山県の倉敷市の人団とほぼ一致する。

プレートの沈みこみにより海に恵みをもたらし、世界の閉鎖海域の中で単位面積あたりの漁獲量が最も高い。

また、近畿地方から九州にかけ東西に長く美しい景観を持つことから船舶による観光の歴史が深い。

瀬戸内国際芸術祭を筆頭に最近賑やかな様に見えるが、

その実情は高齢化、過疎化による弱体化が進行中である。

しかし、瀬戸内諸島は日本が誇る素晴らしい諸島である。

平均的に過ごしやすく、雨は少ないし、海はおだやかで生態系が豊である。



DATA 名称：瀬戸内海
東西 : 450km
南北 : 15-55km
平均水深 : 37.3m
最大水深 : 105m
有人島 : 約 160 島
総人口 : 約 48 万人

小島独特の状況と課題

瀬戸内諸島の中で典型として豊島に注目する。

面積は 14.49 平方キロメートル、周囲 18.0km、標高 340m。

島という環境では周長と高低差、その島の形状から、

時速 100km で走る自動車よりも誰でも運転できる中低速の乗り物が求められていることが分かる。

また、6 つの集落があり、人口が 562 世帯で 1042 人、高齢者が約 42% である。

ここから過疎化と高齢化の進んだ町だと言うことが分かる。

限界集落における原因は雇用不足からの都心部への人の散在がある。

雇用部族は島が一つ一つ孤立化し、コミュニティが小さいことが大きな要因である。



DATA 名称：豊島
面積 : 14.49 平方キロメートル
周囲 : 18.0km
標高 : 340m
人口 : 1042 人
562 世帯
高齢化率 : 約 42%
●: 集落
---: 主要幹線道路

ロールモデル ベニス

瀬戸内諸島という地理環境において独自に発達した交通インフラを考えることは充分に現実的である。

地理的特徴から独自の交通インフラを作り、それが観光資源になったロールモデルになった都市がある。

それはイタリアのベニスである。

ここでは道路の代わりに運河が用いられ、住人は基本的に船で移動している。

観光客はそれに混じり、ゴンドラなどの観光施設で移動すること自体を楽しんでいる。

ベニスの交通インフラの特徴はどの地点からでも、

最寄りの船着き場から徒歩 10 分以内に着けるために S 字形の運河を採用していることや、

小さな船を利用すれば家のすぐ近くまで運河に面した家ならば玄関まで水上を行けることや、

市内の通路は自動車はもちろん自転車も禁止しているというルールがあることなどがあげられる。

瀬戸内諸島もこのロールモデルも参考に、独自の交通インフラをつくることを目標とする。

その先には諸島独自の新しいライフラインを確立し、それが観光資源になるという目標がある。



DATA 名称：ベニス
面積 : 約 4.5km²
人口 : 約 6 万人
密度 : 2.2 万人 / 1 km²
高さ : 4 層まで
観光客 : 5 万人 / 日



ベニスの街並 ベニスでは交通インフラと観光客が運河と船で交わり都市を形成する

イカダのハードウェア

イカダは住民の主要な移動手段になる。

瀬戸内諸島は交通そのものが観光資源になる。

水陸両用のイカダは中学生やおばあちゃんでも1人で別の島に行くことも可能にする。

そうすれば中学校は大きくなるし、おばあちゃんも家に閉じこもることもない。

イカダネットは瀬戸内諸島を一つにする。

イカダのカタチ

イカダのスケールは1800×600×100の細長い立方体でできている。

イカダには前後があり、後ろの方は傾きをつけることができる。

表面の素材、色はその島の特性を反映されたデザインとなっていてその違いは顕著である。

内部には高性能CPUが搭載されていて、このイカダの動きを全て操作する。

動力源は板の上に設置された太陽電池である。

イカダの最低速度は人が歩くくらいで、最高速度は原付自転車くらいである。

またイカダ全体をカバーで包むことで完全屋内にすることもできる。

雨が少なく、気温が安定している瀬戸内ではイカダのシステムが有効的に作動する。

どこまでも拡張していくイカダネット

本物のイカダが丸太を紐で組んで繋げていく様にこのイカダも拡張することができる。

1枚で使ライカダのイメージは車いす、自転車のイメージ。

4枚で使ライカダのイメージは乗用自動車のイメージ。

20枚で使ライカダのイメージは水上屋台のイメージ。

100枚で使ライカダのイメージはコンサート会場のイメージ。

縦列に繋いで使ライカダのイメージは列車のイメージ。

土に還るアスファルト

瀬戸内諸島にイカダという交通インフラを作ることで車はいらなくなった。

島のアスファルト舗装をひっべきがす。

すると人とイカダの通る道は土の道になる。

土の道は瀬戸内諸島の大きな特徴になる。

未来に行けば行くほど昔の自然溢れる瀬戸内諸島に戻って行く。

陸上でも浮くイカダの構造

瀬戸内諸島全域にイカダネットの交通インフラとして常温超伝導体磁石が均等に3つずつ地面に埋め込まれる。

その磁石とイカダの磁石の反発力で宙に浮き安定する。

イカダは次世代の磁気浮上式リニアモーターカーである。

磁石はイカダとインタラクティブに位置を確認することで瞬間に磁力を放出する。

島周辺で漂うイカダ

イカダはもちろん海にも浮かぶ。

瀬戸内海の海がおだやかなことによってイカダの動作は安定する。

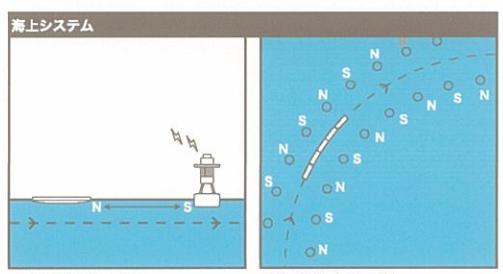
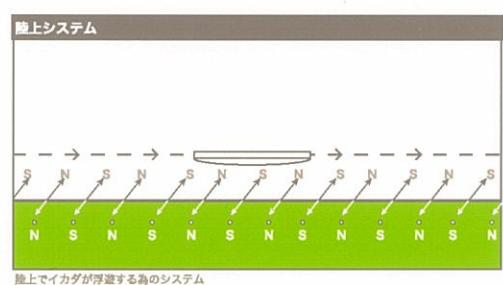
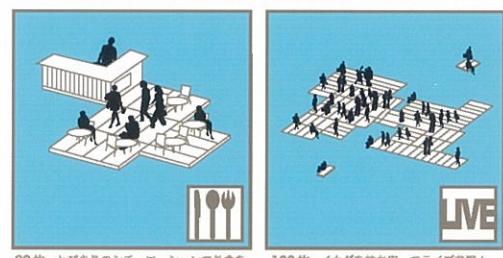
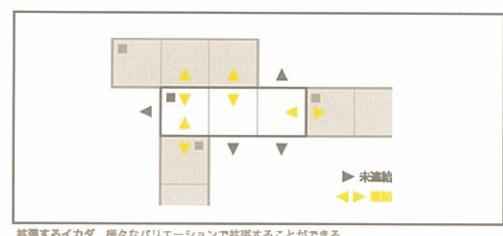
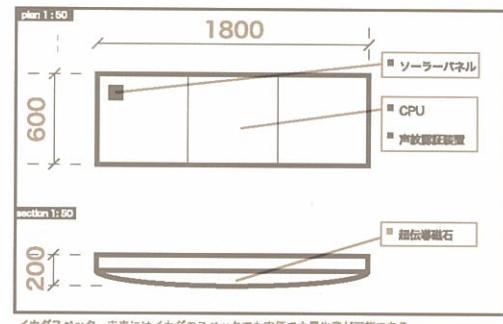
海底に置かれたコア電磁石と反射板によって引力と斥力を調整し、ゆっくりと自由に漂うことが可能になる。

島間移動はリニアの力で高速移動

島と島の間の移動では海上にイカダ専用の超伝導体磁石によるレールがある。

そこを縦列に連結することで高速での移動を可能とする。

イカダネット



イカダのソフトウェア

イカダは島のあらゆる所にある。

瀬戸内諸島にあるイカダは全部で一つである。

イカダ一つには CPU が内蔵されており情報はすべてクラウド化されている。

クラウド化されたイカダはどこにいても自分の机を持ち歩いている様な環境をつくる。

イカダに乗っていれば直接そこに行かなくても授業や診察を受けたりすることが可能になる。

イカダネットは瀬戸内諸島を一つにする。

瀬戸内諸島全域のクラウド化

瀬戸内全体のイカダや島に設置される電磁石などの情報はひとつのサーバーに集約する。

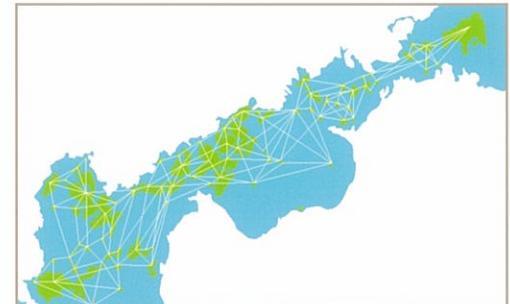
イカダは瀬戸内海で毛細血管の様にネットワークを広げる。

それによって全イカダの位置や状況が把握でき、様々な操作が可能になる。

クラウド化によって島と島の距離はなくなる。

人々は気軽に島を飛び越える。

人や物資は流れ、瀬戸内の端から端へと行き渡っていく。



ネット 濑戸内諸島を現実世界と同じ様に情報世界で連結していく

所有という意識がなくなる

誰のでもあって誰のでもないイカダ。

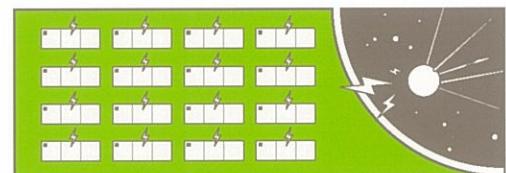
一番近くのイカダを呼び寄せて声紋照合で ID が特定されるシステムをとる。

その人にあった情報が乗るとすぐにイカダに流れ人々の動きをサポートする。

それは例えば、初めて来た島でも最初から心強い友がいる様なものである。

観光客は照合によって観光と判断されイカダを使うことができる。

住民と同じ環境で観光を楽しむことができる。



クラウド 宇宙にあるサーバーで情報を一括で管理することで様々なことが可能になる

450km を克服せよ！

瀬戸内海は東西に約 450km あり物理的移動が難しい離島もある。

瀬戸内諸島が新しい文化圏を形成する為には一つになることが必要である。

端にある島でも全てが平等に情報を得られるネットワークを作る。

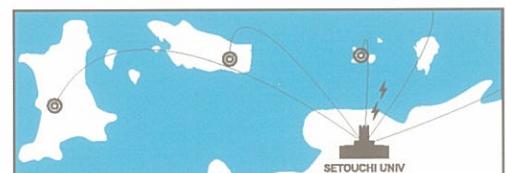
すると 450km の壁を越えて、

例えば、瀬戸内大学などといった大きな充実した大学を作ることが可能になる。

例えば、物資の補給が効率的に行われる様になる。

例えば、遠くの島にいる親戚が身近に感じられる。

クラウドシステムは瀬戸内諸島をひとつの大きな島に変えてしまう。



情報インフラ 物理的な距離を補う為に整備することで離島でもできることが増える

災害時に威力を発揮するイカダネット

台風などで人が家から出れなくなる時に物資が不足しやすくなる。

その時に家からイカダネットを用い、

物資を自動で取りにいき、家まで送らせることが可能である。

人が動けないときに人の代わりの動きを遠隔である程度行うシステムはイカダネットの強みである。



人の行けない所へ 高度に制御されたイカダは人のできないことを補う力がある

住民の使うライフラインが観光資源になる

イカダネットは諸島という特性を活かして開発されたものであり、地域住民の為のライフラインである。

しかし、その特異な交通システムは観光資源として絶大な効果がある。

施設が不足している離島でもイカダネットを使えば簡単に観光ツアーをすることができる。

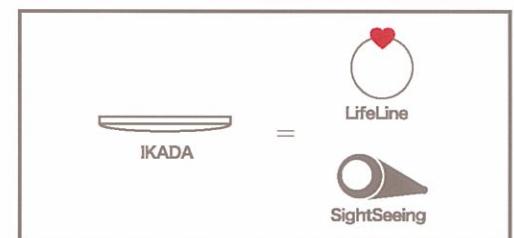
瀬戸内海の豊かな自然環境が尽きない限り、観光資源がなくなることはない。

またその中で島同士を行き来することができ、地域住民とのコミュニケーションも図ることができる。

更に、イカダネットの普及に伴い島の道路をアスファルト舗装から土に還元したことの大変な魅力になる。

イカダネットは今までの瀬戸内の魅力を更に引き出すことに貢献する。

観光資源の創出はそのまま仕事雇用の増大に繋がる。



ロールモデルセトウチ 生活者と観光客のバランスを考えた瀬戸内諸島でしかできない交通

新しい雇用の獲得 専門性のある島へ

観光資源が出来ることで仕事の雇用が増える。

それと同時に瀬戸内諸島が一つのコミュニティになる時、島単位で完結していた産業をより分業化することができる。

分業化することで専門性が増し、それぞれの質が向上する。

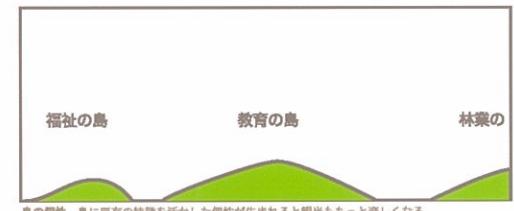
例えば、看護施設の充実した島もできるかもしれない。

例えば、大きな大学がある島ができるかもしれない。

例えば、瀬戸内の工芸の大規模な工房ができるかもしれない。

すると住民の生活の質は向上する。

さらに 瀬戸内諸島独自の生産物を全国規模で展開することが可能になる。



島の個性 島に既存の特徴を活かした個性が生まれると観光ももっと楽しくなる

設立！瀬戸内大学

島単位での学校では充実した教育が图れなく、必然的に子供は島から離れ、絶対数は減少していく。

ここで瀬戸内大学を設立することを提案する。

通える生徒はイカダを使い、少し離れた島でも自らの力で通うことができる様になるだろう。

より遠くに住む生徒はイカダネットから遠隔に講義を受けること、コミュニケーションが可能である。

瀬戸内諸島に住む若者は将来瀬戸内諸島を背負う大切な人材である。

その様な若者が大学を通して交流することで、

彼らが大人になって島を背負う時さらにインラクティブな交流が生まれる。

瀬戸内諸島の未来はより一つになっていくことができる。



瀬戸内大学 濟戸内だからこそできる大学 日本を代表するオルタナティブな学校へ

瀬戸内諸島の新しい文化圏の創出

瀬戸内諸島には瀬戸内海にしかない特性がたくさんある。

豊かな自然、豊富な漁獲量、雨が少なく過ごしやすい気温、そして海に囲まれた位置関係。

ここには東京やニューヨークにはない文化が生まれる可能性がある。

それは自然と対話することで生まれる21世紀の新しい価値観を持った文化である。

その様な可能性は瀬戸内諸島が一つになる時に生まれる。



瀬戸内国際芸術祭 2040 イカダネットの祭大成となるイベントです。会場は瀬戸内諸島全てです。
作品は美術館はもちろん、山の頂上や海の上もあります。はたまた参加者の皆様で集まって作ってしまうことも可能です。イカダを使ってあなたなりのアートと瀬戸内海を発見してください。
会期中はイカダネットを使ったたくさんのイベントを用意しております。もっとも住民が握手にイベントを作ってしまうかもしれません。。。
皆さんのお家を心からお待ちしております。